

少年

第475号(1) 令和7年10月(神無月)発行



山 梨 県 警 察 本 部
生活安全部 人身安全・少年課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線 3082
少 年 対 策 官 島 口 浩 二

～たたずむ～

「あさばらけ 嵐の山は峯晴れて ふもとをくだる 秋の川霧」
(藤原為家)



稲穂が黄金色に染まり、田んぼ一面が輝きはじめた。季節は確実に秋へと移り変わりつつある。今年度も後半を迎えた。何かを終えるとすぐに次の活動へと切り替わり、慌ただしさに追われる毎日が続く。そうした日々を「充実している」と感じる一方で、自分自身と向き合う時間や、誰かと心を通わせる余裕が、少しずつ失われているようにも思える。ときには自ら立ち止まって、ひとり静かにたたずむ時間をもつことが、とても意味のあることなのである。

通勤や通学、食事中でさえスマートフォンを手放さず、情報収集や連絡に追われる人を見かける。結果や答えを素早く求められる社会の中で、常に何かに急かされているようで、気づけば目の前の人との関わりよりもタスクをこなすことが優先されているのだろう。そのような社会の流れの中で、少しずつ自分自身や他者との心のつながりが薄れてはいないだろうか。これは大人だけの問題ではなく、子どもたちの成長にも関わる重要な課題である。

人は「止まること」に不安を感じやすいという。しかし、子どもにとって大人の存在がどれほど大きな意味を持つかを考えると、大人自身が立ち止まり、たたずむことの価値は計り知れない。子どもたちは日々成長し、表情も、言葉も、考え方も少しずつ変化していく。その変化を見逃さないためには、「ゆっくりと見る」「しっかり耳を傾ける」という姿勢が大人に必要なのである。

大人が子どもの将来を案じる気持ちはごく自然なことである。しかし、先のことばかりを心配するあまり、いまこの瞬間の子どもの姿や声に気づけなくなっているのではないだろうか。大人自身が忙しさやプレッシャーに流され、自分の不安や悩みにも目を向けられなくなっていると、本当に大切なものを見失ってしまう恐れがある。

そういう時こそ意識的に立ち止まり、たたずんでみることである。これまで見落としていた子どもの表情や声の変化、自分の心の中にある小さな違和感や願いに気づけるかもしれない。静かな時間の中でこそ、不安や焦りと向き合い、心の奥にある想いを整理することができるのである。

たたずむことは、「何もしないこと」ではない。むしろ自分と向き合い、人との関係を見つめ直すための前向きな行動である。また、そのような大人の姿こそが、子どもに安心感を与えるものとなる。見守られているという実感は子どもの心を安定させ、自ら考え、行動する自律性を育てていく。何も語らなくても、そばにいてくれる存在の温もりは、子どもにとって何よりも大きな支えになるだろう。

何かを成し遂げることや効率を上げるだけでなく、「何もせず、ただたたずむ」。そんな時間や空間を大切に作る姿勢が、いま大人に求められているのである。それによって、自分自身を取り戻し、子どもとの関わりを見つめ直すことができる。そしてそれは、日々の生活に穏やかさやゆとりを生み出し、やがて子どもたちの未来にも、確かな変化をもたらしていくのである。

感性の輪郭

小学生であろうか。すすきを手にした子どもを見かけ、気になって辺りを探してみると、すすきの小さな群れがあった。まだ赤みを帯びた若い穂が多いものの、風景はすっかり秋の趣であった。

すすきの穂が秋風に吹かれ揺れている様子を見ながら、「秋風に吹かれて、ゆらゆらと揺れている」、そうつぶやいてみたものの何か違う。夕暮れ時、柔らかな風に漂うようなその様子。ふわふわ、ひらひら、ゆらり……。どれもじっくりこないまま、その場を後にした。

家に帰っても気になり続け、辞典をめくってみた。そして出会った言葉、「たゆたう」。

ゆらゆらと漂うように、繰り返すように揺れ動くさまを表すこの言葉。この一語が、あの時の風景や自分の心の動きを見事に表している気がした。

似たような言葉は数あれ、使い慣れた言葉だけでは表しきれない想いがある。新しい言葉との出会いが、感性に輪郭を与えてくれる。そんな風にして、感性は豊かに広がり、深まっていくのかもしれない。

第43回 少年を非行から守る中学生防犯弁論大会

9月25日(木)、櫛形生涯学習センターあやめホールにおいて、「第43回少年を非行から守る中学生防犯弁論大会」が開催されました。県下警察署管内で行われた地区大会で選ばれた代表者12名に、開催地である南アルプス警察署管内の中学校の代表者1名を加えた計13名が出場しました。中学生の視点で防犯や少年非行について、自らが体験したことや気づいたこと、日頃実践していることなどが発表されました。13名の弁論はどれも論旨が明確であり表現力もとても豊かで、聴衆の心に訴えかける素晴らしいものでした。傍聴校として、最後まで真剣に聴いていた南アルプス市立櫛形中学校1年生の態度も、大会を彩っていました。

いじめをなくすために

甲府市立南中学校 1年

清水 葵 さん

中学校に入学する前、新しい生活が始まるのがとても不安でした。でも、今私はクラスが大好きだし、学校がとても楽しいです。こんなふうに毎日が送れることはあたりまえのことに感じている人は多いと思います。しかし私は、毎日学校に楽しく来られることがどれだけ幸せなことなのか、みなさんにきづいてほしいのです。

小学校四年生の時、私の友達はいじめられていました。「死ね、消えろ、空気が汚れる、じゃま、こび女」。毎日このような罵声をあびせられ傷ついた友達は、学校に来られなくなってしまいました。大好きだった友達が学校に来られなくなって、私はとてもさみしかったです。でもそれ以上に、大好きな友達になにもしてあげられなかった自分にとっても腹がたちました。私は友達のために、何かできたのではないかと思うと、悲しくて、悔しくてしかたありませんでした。

人の心を深く傷つけその人の生活や人生までも大きく変えてしまういじめは、けして許されることではありません。そんないじめをなくすためにはどうすればよいのか、私は考えてみました。

まず、大切なことはいじめられている人に寄り添うことだと思います。いじめられている人は相談できない環境にいる人が非常に多いのです。そこで、その話を聞くことができる私達、友達が大切になってきます。いじめは突然起こります。ふだん一緒にいる友達に何かあった時には、その友達の話を聞いて共感し、一人ぼっちにしないことが大切です。

また、自分たちで解決できない時、もちろん少しでも人を傷つけることがあったなら、先生や家の人など、周囲の大人に相談することも必要です。実は、私の友達のいじめも、私達子供だけでは解決できませんでした。友達から話を聞いた私は、勇気をもって先生に相談しました。そこからは、家の人達をふくめての話し合いがされて、とても時間はかかりましたが、今友達は少しずつ登校できるようになっています。

そして、いじめをなくすためには、やはり「差別や偏見」をしないことです。自分勝手な偏見は人を傷つけます。私は幼いころ、人の体型をばかにしてしまいました。ひどい言葉をなげかけたこと、それをひどくしかられたことを覚えています。そしてなによりも、傷つけてしまった相手の悲しそうな顔は、今でも忘れることはできません。私は今も後悔しています。だからこそ、「偏見で人を差別しないほしい、人を傷つけないほしい。」と、私は心から思っています。

あなたの周りに、いじめはありませんか。自分勝手な偏見で誰かを傷つけてはいませんか。傷つけられて良い人なんて誰一人いないのです。

今私達にできることは難しいことではありません。お互いがお互いを思いやること、大切にすることなのです。そのためにも、勝手な偏見をもたず、まずはその人と話すことから始めてみませんか。私達はみんな、安心して楽しくすごせる学校をもとめているのだから。

《大会成績結果》発表者のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました。

賞	氏名	中学校名/学年	演題	警察署
最優秀	清水 葵	甲府南/1年	いじめをなくすために	南甲府
優秀	望月 六花	甲府西/3年	挨拶で安全な地域づくり	甲府
優良	山下 胡桃	櫛形/2年	見方を変えれば・・・	南アルプス
入賞 ※記載順は 発表順	佐藤 久怜亜	大月東/3年	「目くばせ」より「目配り」を	大月
	山本 聡実	勝沼/3年	価値観を精査する	日下部
	市瀬 楓	三珠/3年	私たちが感じるべきもの	鯉沢
	遠藤 愛純	南部/2年	それでもあなたはこの言葉を使えますか	南部
	渡辺 宥和	御坂/3年	真実をどう活かすか	笛吹
	中込 そよ	白根巨摩/2年	令和と昭和	南アルプス
	入江 峻輔	上野原西/3年	スマートフォンとの向き合い方を考えよう	上野原
	梶原 旅人	河口湖北/3年	A I時代を生きていくために	富士吉田
	小林 七実	須玉/3年	言葉を大切に	北杜
	犬塚 博也	竜王/3年	注意のひとつ	甲斐

発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

http://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html